

ボルグワーナー、革新的技術のクーラントヒーターを プレミアムEV(電気自動車)向けに供給

- 新技術採用のヒーター、BMWグループへの供給により初の欧州市場進出
- 車内暖房への適用により、バッテリーのエネルギー効率向上、充電速度アップを実現
- 3kWから10kWまでの出力バリエーションが揃う熱マネジメントソリューション

革新的で持続可能なモビリティソリューションを自動車業界に提供するボルグワーナー(本社:アメリカ合衆国ミシガン州アーバンヒルズ、社長兼最高経営責任者:フレデリック・リサルド/Frédéric B.Lissalde)は、BMWグループのiXおよびi4に採用されたフルEVアーキテクチャ向けに、革新的な高電圧クーラントヒーター(HVCH)を供給します。電動化のトレンドが高まるにつれ、いくつもの異なったプラットフォームやさまざまな性能のEV(電気自動車)がOEM各社から発売されている中で今回の供給は、EVの可能性をさらに広げ、バッテリーの熱マネジメントと車内暖房を制御し、航続距離とバッテリーの耐久性を大幅に向上させるものです。

HVCHは、250~500Vの動作範囲での利用に適した3~10kWの出力バリエーションが通常用意されています。コンパクトなモジュール設計とパッケージの小型・軽量化を特徴とするソリューションとして、OEMの自動車開発をサポートします。また、熱出力密度が高く、低熱質量と高効率により、加熱時の応答時間を短縮することが可能です。主要部品のステンレス製厚膜発熱体(TFE)は、電磁波を遮蔽し、熱衝撃、振動、機械的ストレスに強い堅牢なアルミダイキャスト製のハウジングを採用しています。このようにTFEのロバスタ性が高いため、製品の長寿命化を実現しています。

ボルグワーナーが最近発表した電動化戦略、「チャージング・フォワード(Charging Forward)」の一環としてさらに電動化戦略を推し進めています。この計画では、2035年までにカーボンニュートラルを達成するというコミットメントとともに、同社のEV関連収益を現在の3%から2030年までに全体の約45%に引き上げることを目標としています。

ボルグワーナー・エミッション/サーマル/ターボ・システムズ社の社長兼事業本部長のジョー・ファドール(Joe Fadool)は、「当社は20年以上にわたりBMWグループと協力関係にあり、内燃機関向けに

数多くのソリューションを提供してきました。今回、BMW グループのプレミアム EV をサポートし、未来のモビリティとよりクリーンな環境の実現に貢献できることを特に嬉しく思っています」と述べています。



ボルグワーナーの高電圧クーラントヒーターが BMW グループの iX と i4 に採用

ボルグワーナーについて

ボルグワーナー (NYSE: BWA) は、自動車市場に革新的で持続可能なモビリティソリューションを提供する世界有数の企業です。OEM 向け純正品で培ったノウハウを活かし、グローバルアフターマーケット市場にもトップクラスの製品やサービスソリューションを提供しています。世界 22 カ国 96 カ所に生産・開発拠点をもち、全世界でおよそ 50,000 人の従業員を雇用しています。詳細については、borgwarner.com をご覧ください。

本プレスリリース(以下、本「リリース」)に記載された内容には、経営陣の現在の見通し、期待事項、試算、推定に基づく、1995 年米国私募証券訴訟改革法で想定された将来予測に関する記述が含まれています。「見込む」、「考える」、「継続する」、「可能性がある」、「目的とした」、「影響」、「試算する」、「評価する」、「期待する」、「予測する」、「目標」、「指針」、「取り組み」、「意図する」、「場合がある」、「見通し」、「計画する」、「潜在的」、「予見する」、「推定する」、「追求する」、「目指す」、「すべきである」、「目標とする」、「の場合」、「でしょう」、「かもしれない」などの文言、その変化形および同様の表現は、かかる将来予測に関する記述であることを意図しています。さらに、歴史的事実に関する記述を除く、本リリースに含まれる、または言及する形で盛り込まれた当社の財務状況、事業戦略、当該戦略を実施するための手段などに関して、将来起きる、または起きる場合があると当社が期待する、または見込むあらゆる記述は、将来予測に関する記述です。その例として、業務の変更、競争上の強み、目標、当社事業および業務の拡大と成長、計画、将来の成功に関する言及などがあります。当社の 2020 年 12 月期の Form 10-K 年次報告書(以下、「Form 10-K」)の第 7 項「重要な会計方針 (Critical Accounting Policies)」で記述されたものをはじめとする会計上の試算は、本質的に将来予測です。すべての将来予測に関する記述は、歴史的な動向、現在の状況、期待される将来の進展、当社がそれらの状況下で適切と考えるその他の要因に関する当社の経験と知見を踏まえた当社による仮定および分析に基づいています。将来予測に関する記述は業績を保証するものではなく、当社の実際の業績は、将来予測に関する記述において表現、推定、または示唆された事柄と著しく異なる場合があります。

これらの将来予測に関する記述は、本リリースの発行日における事柄を述べたものであり、過度に依存すべきではありません。将来予測に関する記述にはリスクおよび不確実性が伴いますが、それらの多くは予見困難かつ一般的に不可抗力によるものであり、将来予測に関する記述において表現、推定、または示唆された事柄とは著しく異なる実際の結果をもたらす可能性があります。そうしたリスクおよび不確実性の例として、COVID-19/新型コロナウイルスに関連する事態が及ぼす影響の範囲および期間に関する不確実性(さらなる製造停止等)、2020 年 10 月 1 日に完了したデルファイ・テクノロジーズ社の買収から期待される利益の不実現、取得した事業の迅速かつ効果的な統合の不実施、取得した事業に関連する未確認または推測不可能な債務の可能性、AKASOL の買収による期待された利益が実現しないこと、またはそのような利益を実現する能力が遅れること。AKASOL 社の買収で期待された効果が得られないこと、またはその実現が遅れること、AKASOL 社に関する非公開戦略を適時に成功させられないこと、電気自動車の需要予測が困難であることなどです。AKASOL 社に関する非公開戦略をタイムリーに実行できないこと、電気自動車の需要予測が困難であること、2030 年までの電気自動車の売上成長率を予測できないこと、ターゲットとなる企業を特定する能力がないこと、などです。2030 年までの電気自動車の売上成長を予測することの難しさに、ターゲットを特定して許容可能な条件で買収を完了させる能力、期待された利益を実現できないこと。買収によって期待される利益を実現できないこと、売却する適切な燃焼系ポートフォリオ事業を特定し、買収した事業を迅速かつ効果的に統合することができないこと、燃焼系ポートフォリオの適切な事業を特定し、計画された売却を受け入れ可能な条件で完了させる能力、買収した事業を迅速かつ効果的に統合することができないこと、買収した事業に関連する未知のまたは見積もれない負債の可能性、自動車および買収した事業を迅速かつ効果的に統合できなかった場合、買収した事業に関連して未知のまたは推定可能な負債が発生する可能性があること、自動車およびトラック製造(いずれも景気に大きく左右される)への当社の依存性、大手 OEM 顧客への当社の依存性、商品の入手可能性および価格、供給停止、金利の変動および外貨の為替レートの変動、与信枠、主要経営陣への当社の依存性、情報システムへの当社の依存性、世界経済環境の不確実性、さまざまな損害賠償に関する訴訟など既存または将来の法的手続きの結果、当社が事業を展開している国における関税など将来の法規制の変更、直近の Form 10-K の第 1A 項「リスク要因 (Risk Factors)」など証券取引委員会に提出する報告書に記載したその他のリスクが挙げられます。当社は、期待事項の変更または記述の根拠となる出来事、条件、状況、仮定の変更を反映するために、本発表文に含まれる将来予測に関する記述のいずれかを更新する、または更新もしくは改訂を公表する義務を負いません。

<報道に関するお問い合わせ>

ボルグワーナー広報事務局 中井、浜辺

TEL: 03-6260-4854 EMAIL: borgwarner-pr@kyodo-pr.co.jp